✿木沢学

山野草便り

VOL5　2012.5.15

★木沢にある4～5月に開花する樹木

★ツノハシバミ（角榛）カバノキ科ハシバミ属

✿落葉低木
✿木沢名＝カシマメの木
✿分布はほぼ全国の山地。
✿名の由来はツノは果苞の形から。ハシバミは「榛柴実（はりしばみ）からの転訛」「葉にしわが多いので葉皺（はしわ）が転訛」など。
✿総苞をむいた堅果は油分を含み美味い。日本版ヘーゼルナッツとも言われる。
ただ、総苞には刺毛が密生し、剝くときに指に刺さってチクチクする。
総苞（そうほう）＝実を包んでいる皮の部分。

実（去年の写真）

若葉

★ユキグニミツバツツジ（雪国三葉躑躅）
ツツジ科ツツジ属

✿落葉低木
✿木沢名＝「（紫の）んまつつじ」
✿主に日本海側の多雪地帯に自生。
✿ダイセンミツバツツジの変種と言われるが、違いは葉柄に毛があるのがダイセン、毛がないのがユキグニである。
葉柄（ようへい）＝葉のつけ根、枝につながっている部分。
✿木沢では東の山にしか自生しておらず、まっさきに咲くツツジである。

葉が3枚つく

ここに葉が1枚つくのがコブシ

★タムシバ（田虫葉）モクレン科モクレン属

✿落葉小高木
✿別名＝ニオイコブシ（花に芳香がある）。
カムシバ（噛む柴）。葉を噛むと甘味があるのでついた名で、転じてタムシバになったとも言われる。
✿本州から九州の山地に分布。特に日本海側に多い。
✿コブシと間違われ易いが、違いは花の下に葉がつくのがコブシで、葉がないのがタムシバ。葉はタムシバの方が細長い。
✿木沢ではタムシバも「こぶし」と呼び、こぶしが多く咲く年は豊作になると言われている。
今年はこぶしの花が少ないが、、、？

★木沢にある5月に開花する樹木

★イワナシ（岩梨）ツツジ科イワナシ属

✿常緑小低木。と言っても、小さすぎてよく見ないと木には見えない。
✿木沢名＝すっぱつ
✿日本固有種で、主に日本海側の山地に自生する。
✿木沢では道の山側、崖地斜面で見かけるが、近年その数は減っている。
子供のころ、初夏（6月頃）にその実を採って食べたが、小さい割に美味で人気があった。
✿イワナシの名は果実が梨の味に似ていることから。

果実（写真は去年のもの）
もう少し色づいた方がうまい。

★ミツバアケビ（三葉木通）アケビ科ｱｹﾋﾞ属

✿落葉つる性木本。
✿木沢名＝あかいぶ（アーカイブではない）。
✿雌雄同株、雌雄異花。大きい方が雌花、小さい花が雄でたくさん付く。
✿アケビとの違いはアケビの葉が5枚（5出複葉）なのに対し、ミツバはその名の通り3枚の葉（3出複葉）が付く。
✿若芽は山菜の「木の芽」として有名。
✿つるは左巻き。籠細工などに使用。
✿果実は甘く、甘味料の少なかった昔は貴重な食物で、平安時代には朝廷に献上されたという記録があるようだ。

写真は去年の実

幹が青い（緑）

花の拡大

★ウリハダカエデ（瓜肌楓）
カエデ科カエデ属

✿落葉高木。
✿名は樹皮が瓜の模様に似ているから。
✿木沢名＝あおぼ。
✿雌雄異株。
✿花は小さく穂状に垂れる。
✿木沢では普通に見られるが、高木というイメージは余りない。
✿カエデ属だけに紅葉も見どころのひとつ。
✿樹皮が似ているものに「ウリカエデ」があるが、ウリハダカエデより葉が小さく、形も少し違う。

✿木沢学

山野草便り vol.4　2012.5.9

スミレ科には約20前後（学者によって違う）のスミレ属があるそうですが、3属以外は全て木で基本的には「スミレ科は木」だそうです。昔スミレの木が何度か氷期を経験するうち、その一部が耐寒性の強い草に変化し、現在の草本スミレ3属の元になったようです。
ここでは木沢に自生するスミレ8種を紹介します（4～5月）。

★オオバキスミレ（大葉黄菫）スミレ科スミレ属
✿木沢名＝キチョキチョバナ
✿日本海側の多雪地帯に多く、日本固有種。
✿昔、山菜として食用にしたという。
✿木沢では雪解け後真っ先に咲くスミレのひとつであるが、他のスミレよりも大群落を作り開花期間も長い。

★ツボスミレ（坪菫）
スミレ科スミレ属
✿坪は庭の意味。別名「ニョイスミレ（如意菫）」。葉が僧侶の持つ如意に似ていることから（如意棒ではない）。
✿日本全国に分布。
✿やや湿った場所や、畑、畔などに自生する。
✿花は白で小さい。
✿葉は基部が大きく湾入するハート形。

★スミレ（菫）スミレ科スミレ属
✿スミレと言ったらこれ、その名もズバリ、スミレ。
✿名前の由来は花が大工道具の「墨入れ」に似ていることから、という説がある。
✿木沢では畔や土手、道端など日当たりの良いところに自生している。
✿花色は濃い紫で、よく目立つ。
✿種子を遠くに飛ばし、厭地（いやじ）を防ぐ習性がある。
厭地＝連作障害による不毛地。
✿繁殖力が弱いので乱獲は禁物。

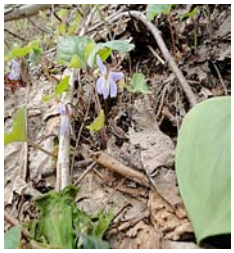
★マキノスミレ（牧野菫）スミレ科スミレ属
✿シハイスミレ（紫背菫）の変種と言われるが中間種もあるようで、区別が難しい。
✿名のマキノは植物学者・牧野富太郎が採集したことから。
✿分布は中部以北。個体数は少な目。
シハイスミレは中部以西。
✿写真では分かりにくいが、花は紅紫色でやや小さ目。個人的にはスミレの中では一番美しいと思う。
✿木沢では遊歩道など林縁で見られる。

★アオイスミレ（葵菫）スミレ科スミレ属
✿木沢名＝すもうっとりばな（相撲取り花）
✿昔、花と花を引っかけてお互いに引き合い茎から花が取れた（落ちた）方が負け、という子供の遊びからついた名。必ずしもアオイスミレだけではなく、タチツボスミレやナガハシスミレでも遊んだものと思われる。
✿雪解け後、真っ先に咲くスミレである。
✿見分け方は雌しべの花柱と呼ばれる部分の先端がかぎ状に曲がっていることと、若葉の両端が巻き、白毛があることなど。ただし、虫眼鏡がないと分からない。

★ナガハシスミレ（長嘴菫）スミレ科スミレ属
✿別名テングスミレ（天狗菫）。
✿距と呼ばれる部分が上方に突き立っていることから、天狗の鼻に見立てたものである。
✿主に日本海側の山地に多い。
✿葉は越冬する。
✿木沢での分布は広範囲。日当たりの良い場所に群生する。木沢で一番見かけるスミレである。

★オオタチツボスミレ（立坪菫）スミレ科スミレ属
✿北海道から本州、九州北部の日本海側に自生。いわゆる北方系の種。
✿花は大きな目。
✿タチツボスミレと似ていて区別しにくいが、距の色で分かる。

距（きょ）＝蜜腺を貯蔵しておくところ。
オオタチツボは白。
タチツボは淡紫。
✿木沢では山の斜面や路傍でよく見かける。



★スミレサイシン（菫細辛）スミレ科スミレ属
✿名はウスバサイシン（カンアオイの仲間）に似ているところから。
✿主に日本海側の多雪地帯に多く、日本のスミレの中でも最大級の葉を付け、花後15センチになるものもある。
✿太くて長い地下茎はすりおろして食用にする地方もあり、トロロスミレの呼び名もある。
✿花もスミレの中では大型。

✿木沢学

山野草便り Vol.8　2012.5.25

★木沢にある5月の山野草

★ムラサキケマン（紫華鬘）ケシ科キケマン属
✿華鬘（けまん）とは仏間の飾りだが、本来は生花で作った花輪のことで名はそこから。
✿全草にプロトピンという毒をふくむ。食すと嘔吐、呼吸麻痺、心臓麻痺を引き起こす。
✿古い時代の帰化植物といわれる。
✿ロゼットで越冬する。
ロゼット＝地上茎がないか極端に短く葉が放射状に地中から直接出ている（根出葉）こと。ﾀﾝﾎﾟﾎﾟなど。

★カキドオシ（垣通し）
シソ科カキドオシ属
✿名は垣根を通り抜けて入ってくる程繁殖力が強いことから。
✿花のころは茎が立っているが、やがて倒れて節から根が出て這うようになる。
✿民間薬として使われる。
全草を花の時期に取り、水洗いして陰干しにする。
利尿、消炎、血糖降下に効果があり、小児の疳（かん）にも効くことから、「疳取草（かんとりくさ）の別名もある。
✿木沢でも乾燥したものを「あぐりの里」に出荷していた。

★マムシグサ（蝮草）ｻﾄｲﾓ科ﾃﾝﾅﾝｼｮｳ属
✿雌雄異株。有毒。
✿球根、葉にはシュウ酸カルシウムの針状結晶が含まれ、食すと口中から喉（のど）まで激痛がはしり、唾（つば）を飲むことすらできないほどだそうだ。
✿茎のように見えるものは葉鞘（ようしょう）なので、偽茎と呼ぶ。
葉鞘＝葉の基部が合わさって刀の鞘（さや）のようになっているもの。
✿テンナンショウ属なので栄養状態によっては性転換する。
✿仏炎苞が緑色のものはアオマムシグサと呼ばれるようだが、この属は変異が多く、よく分からない。

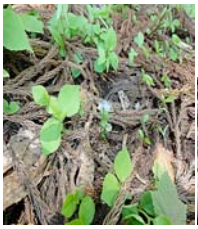
アオマムシか？
葉鞘

★木沢にある5月の山野草

★トキワハゼ（常盤爆）
ｺﾞﾏﾉﾊｸﾞｻ科ｻｷｺﾞｹ属
✿一年草。いわゆる雑草。
✿日本各地に分布。
✿畦道や湿った畑、草地などに生える。
✿花は4～11月頃まで咲き続ける。
✿「ときわ」の名はほぼ一年中あることから。
✿花は1センチくらい。

★サワオグルマ（沢小車）キク科キオン属

✿本州、四国、九州に分布。
✿湿原、休耕田など湿地に自生する。
✿茎は中が空洞になっている。
✿名は放射状に並んだ花びらを牛車の車輪に見立てたもの（小車）。
但し、オグルマは別属。
✿木沢でも向山の放棄田などに見られる。



★シャガ（射干）アヤメ科アヤメ属
✿本州、四国、九州に分布。
✿比較的湿った日陰を好み群生する。
✿別名＝胡蝶花。
✿古い時代に中国から渡ってきた帰化植物。
✿染色体が三倍体のため、種子が出来ない。そのため、日本にある全てのシャガは同一の遺伝子を持つ（地下茎を伸ばして増える）。従って、分布の広がりは人為的に行われたと考えられ、人の手の入らない自然林内に自生することは基本的にはない。

★フデリンドウ（筆竜胆）
リンドウ科リンドウ属
✿日本の各地に分布。
✿山地の疎林内や日当たりの良い草原に自生する。
✿名は花の閉じた状態が筆先に似ていることから。
✿草丈は5センチ程度で小さい。
✿リンドウ属なので日が差すときだけ花を開く。
✿木沢では遊歩道や丸山、向山で確認しているが、そんなに多くはないと思う。

木沢学

山野草便り

vol.7　2012.5.23

★木沢にある5月に開花する樹木

★ハウチワカエデ（羽団扇楓）
カエデ科カエデ属

✿落葉高木。北海道、本州に分布する日本固有種。
✿別名＝メイゲツカエデ（名月楓）
✿同株に両性花と雄花をつける雄性同株。
✿葉は7～12センチの大型。
✿名は天狗の羽団扇に葉が似ているから。
✿木沢での分布はカエデ属の中では少ない方かも？調べてないなので分からないが。

去年の紅葉

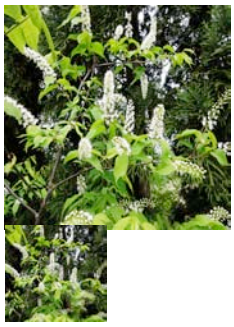
★ウワミズザクラ（上溝桜）バラ科サクラ属

✿落葉高木。
✿別名＝ハハカ（古事記に記されている）
✿名は亀甲占いにこの材を使ったことから。それは亀の甲や鹿の肩甲骨を焼いてその割れ方で吉凶を占うのだが、予め彫られた肩甲骨の裏の溝を、焼いたこの材で押し付けたことから「裏溝」となり、それが転訛したものと言われる。
✿若い花穂と未熟の実は塩漬けにして、杏仁子（あんにんご）として食用にされるため木沢では「アンニンゴ」の木と呼ぶ。
✿材は堅く鉈（なた）の柄などに使われ、その堅さから「金剛桜」と呼ぶ地方もある。
✿実は「あんにんご酒」にも利用される。
✿また、実はツキノワグマの大好物でもあるようだ。

★フジ（藤）
マメ科フジ属

✿つる性落葉木本。
✿別名＝ノダフジ（野田藤）
摂津国（せっつのくに）野田（現・大阪市）にあった藤の名所にちなむ。
✿日本固有種。本州、四国九州に分布。
✿フジ属は日本に2種だけが自生（フジとヤマフジ）。
✿ヤマフジは主に西日本に自生し、左巻き。
✿フジは右巻き。
✿木沢でも広範囲に自生し、花の美しさよりも、宿り木を枯らすことで悪役扱いされることが多い。

✿花は甘い香りがし、よくクマバチ（木沢ではクマンバチ）が蜜をあさっている光景を目にする。因みにクマバチは花粉を媒介しないそうだ。
✿つるは椅子や籠などの籐細工に、ほぐした繊維は藤布に加工される。
✿花は天ぷらや、塩漬けにして花茶に用いる。



★木沢にある5月に開花する樹木

★タニウツギ（谷空木）
スイカズラ科タニウツギ属

✿木沢名＝ろうっぱ
✿落葉低木。日本固有種。
✿別名＝ベニウツギ、田植え花。
✿北海道、本州の日本海側の山地に分布。
✿火事花、葬式花、死人花（しびとばな）などと呼び、家の中に飾ることを嫌う。

✿子供のころ、若木を切って木刀がわりにして遊んだ。

★エゾユズリハ（蝦夷譲葉）　雄花
ユズリハ科ユズリハ属

✿常緑低木。雌雄異株。
✿北海道、本州の日本海側に分布。
✿「ユズリハ」は新葉が成長するころ、古葉が散ることから、親から子へ譲るという意味でつけられた。
✿木沢でもまだ雪の積もらない冬枯れの山で鮮やかな大きな緑の葉を付けている姿はよく目立つ。

★ガマズミ（莢蒾）
スイカズラ科ガマズミ属

✿落葉低木。日本各地に分布。
✿名の由来は「神ツ実」「噛み酢実」の転訛、鎌の柄に使ったから「カマ」など定かではない。
✿昔は実で衣服を染めたことから「染（ずみ）」となったという説もある。
✿葉は褐色に染めるための染料に使用。
✿長野県では大根などの漬物を実で赤く染めるようだ。
✿木沢では秋の実の中で一番目立って多い。

★ツリバナ（吊花）ニシキギ科ﾆｼｷｷﾞ属

✿落葉低木
✿日本各地の山地に分布。
✿名は花が吊り下がるように咲くことから。
✿樹木は花より実の方が目立つことが多いが、この実は特にそうである。
実が熟すと5つに割れ、中から橙赤色の種子がこれまた吊り下がるように顔を出す。
✿木沢でも広く分布しているようだが、そんなに数は多くない。